

M 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は1〜3となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しすぎはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题用紙に書くこと)

恋の話聞いたことがなかったら、けつして恋愛などしなかったろうと思われる人びとがいる、ということがある。といっても、これは直接には庶民一般の色恋沙汰について述べられたのではない。書きとめたのは十七世紀フランスの大貴族^(注1)ラ・ロシュフコオ、恋愛と呼ばれているものも、直接には宮廷やサロンで貴族たちが追求した^(注2)プレシオジテにかかわる男女関係の一面の観察にすぎない(『箴言』一三三〇)。けれども鳥や獣や昆虫でも繁殖期にいたれば美声をふるわせ美装をこらすように、恋愛の極致が卵子と精子の結合、現代的にいうと遺伝子の存続にある以上、一般庶民に関しても、ラ・ロシュフコオの箴言^(a)があるていどの真実を射あてているのは否定できないであろう。そこへいくと、風景の場合はいたつて明快であつて、風景に積極的な意味だの価値だのがあるという話を聞いたことがなければ、人が風景に関心をいだくことはまずありえない。簡単にいえば、だれもが風景を見られるわけではないということである。

恋愛が、少なくとも自然状態にあつては、究極的に自然の秩序に従っているのにたいして、風景の見かた、(日本語では)同じことだが風景の見えかたは社会的な秩序に発しているのであつて、自然的秩序には属していない。自然を自然それ自体として、あるいはやや社会のほうへ傾いて景観として科学的にか工学的にか見る／＼にしか見ないのも社会的秩序がそうさせるのである。社会的秩序とは、この場合さしあたり視線の使いかたという身体技法を決定する文化の一位相を意味している。⁽¹⁾自然科学が自然そのものを見られる、しかも精確に、というのは幻想にまではいかないにせよ一個の仮設でしかない。それにたいして景観のうちに風景を見出すこと、換言すれば自然を宗教的、哲学的もしくは⁽⁴⁾シンビ的に見ることはほとんど幻想に類するといつていい。自然科学と異なつて、こちらは当初から想像的なもの、価値的なものを回避することなく自然に対面するからだ。むろんどちらのばあいにも初めに視線があつて、つぎに自然が、具体的には景観や風景があるのであり、視線が景観を工学的に計測するか、風景に没入して^(b)恍惚自恣たるかは社会的秩序が決定する。そして社会的秩序とは何よりもまず、人間の

社会的な分節化によって社会が一個の秩序を形成すると考える、所与の社会における支配的なイデオロギーであり、具体的にはそのイデオロギーによって認証された、当該の社会のそれ自体がすでに分節化されている文化、同じことだが、その社会の個々の成員が負荷されていたり所有したりしている教養にほかならない。

近世後期の文人たちが生きていた社会は、厳重な士庶しじやの分を第一原理とした封建的身分制社会として知られている。そこでは、風景を見るかどうか、または風景が見えるか否かの現実的で具体的な二分節化は、ありていにしてしまえば、おおよそのところでこの士庶の分の単純かつ複雑な社会的分節化に対応していた。士庶の分の二分割を単純かつ複雑と形容したのは、原理的には単純明快だったが、現実の社会では複雑に錯綜していたからである。豊前中津ぶせんの染物屋の子に生まれた中村栗園が近江水口藩みなくちの儒官に変成した例を、また駿河田中藩の教授のひとり石井繩齋いすづが伊豆の庶民の出身であったことを想い出そう。彼らが生きた時期に、森厳な鎖国による社会的、文化的、だから精神的な閉塞のうちに眠ったみたいな天下シヨウヘイ(ロ)をことほぎながら、それでも彼らの社会は浮動をはじめていたのである。

だれでもすこしは経験していることだが、一般に風景の発見は、日常のきまりきった時間と場所から多少とも離れた場と時とに現われる。景観から風景が人のまえに現われて見えてくるには、見る人の視線が浮動していないなければならない。視線の固定は心理の平安と生活の安定のしるしだから、それが良いか悪いか判断するのはむずかしい。だが、心理の平安や自足が風景の発見にふさわしくないのはほぼ自明だといっている。反対に風景が見えてくるには、一定強度の心理の不安定が不可欠だといえるので、ふつうには日常生活の安定のなかに挿入される時と場の移動として旅や遠出こそそれにぴったりの機会なのであって、たいていの社会で、文化はそのために旅することを社会的な装置として、程度の差はあれ、文化の重要な領域に組みこんでいる。そしてこの旅や遠足がまたただちに社会的秩序にもとづく分節化に対応する、むしろそれによって支配されている（このことは大衆観光が大隆盛している現存の社会でも何らかわるところがない）。

二世紀以上もつづいた平和のおかげで、近世後期の文人たちの時代に、旅は彼らの の重要な部分にな

った。参勤交代制度のせいで、まず支配者層たる大名諸侯が、原則として二年に一回は、えらく費用のかかる旅をはでして演戲しなければならなかった。これに比較したら、弥次郎兵衛と喜多八の、一銭二銭をちよろまかすだけが興味の中心であるみたいな、いじけた道中でも旅は旅であるに相違なかった。おかげで主要な街道は整備され、宿泊施設もよほどとのい、旅を安樂にするさまざまな商売が発達し、携帯に便利な道中案内だの家内図だの、名所図会や旅行記などが出版されて、旅することが相対的にずいぶん安全になっていた。古代以来馬車がまったく使われなかったこの社会で、陸路は徒歩が原則の旅だったけれど、そのわりに人びとは身分の高下にかかわらずよく旅をした。平和だったからである。伊勢参詣のような巡礼の旅なら、いまの旅行エイジェンシーによく似た組織がたよれたし、旅籠が各地に相互協定を結んで安全な宿泊を提供することもあったし、京都や大坂でショッピングをやると、宅配便まがいの運送業者のサービスが使え、電話はなかったけれど「郵便」業務も民間業者が必要に感えていた。漢学的に表現すれば、農本商末主義⁽³⁾——社会の存立と維持にとつては、農業が経済の根幹であつて、商業は農業に寄生して、それを破壊する活動であるゆえに、可能ならば絶滅すべき末梢だとする古代中国の政治思想に由来する、江戸幕府をはじめ、諸藩の経済政策を律する政治原理が、社会の現実から遊離して浮動していたのである。

この時代にも旅には二種の類別があつた。いわば旅することの目的にかかわる類別で、業務の旅と遊興の旅だが、当然ながら社会的秩序の分節化、具体的には、士庶の分なる身分制によつてそれぞれがさらに二種に種別された。

参勤交代の制度に従つて、諸侯とその家臣団が江戸出府と領国下行を反復していたのが第一類第一種、商用や公事（訴訟事件）^{くじ}で、江戸や大坂その他へ商人や農民たちが出張したのが第一類第二種である。第二類は遊興と遊学のための旅で、その第一種は士もしくは士に準ずるものの旅で武者修行型、その第二種は衆庶平民の巡礼や保養や名所見物やを目的とする旅であつて物見遊山型と呼ぶことができる。

（大室幹雄『月瀬幻影』による）

(注) 1 ラ・ロシュフコオ——フランスの貴族で文人(一六二三—一六八〇)。厭世的な思考に基づき、人間心理を描き出した。代表作は「箴言」。

2 プレシオジテ——女性尊重の態度やふるまいを指す。しかし当初の洗練ぶりが次第に気取りへと変化していった。

問

(A) 〓 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)

(B) 〓 線部(a)・(b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 第一段落から第二段落の初めにかけて、恋愛と風景とが対比的に述べられているが、それらについての説明として、左記各項のうち、ふさわしいものを1、ふさわしくないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ ラ・ロシュフコオの『箴言』は、庶民一般の場合を想定して述べられたものではない。

ロ 鳥獣昆虫類も庶民も宮廷の貴族も、恋愛に際しては似たようなものであると筆者は考えている。

ハ 風景の場合が明快であるというのは、風景への関心の抱き方が毅然としているという意味である。

ニ 筆者の考えに従えば、風景に関心をいだく、を、風景を見られる、と言換えることも可能である。

ホ 少なくとも自然状態にあつては、という言い方からも、多くの場合恋愛は自然の秩序には従っていないと筆者は考えている。

(D) 〓 線部(1)について。この部分に関わる説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 ここでいう「幻想」とは「仮設」よりも主観的で、客観性を持ちえないという意味である。

2 「精確に」というのは、ここでは没入や恍惚自恣の逆説的な表現である。

3 景観のうちに風景を見出すことも、自然科学の営みの一環である。

4 自然の秩序に従っているという点では、自然科学は恋愛に通じるところがある。

5 自然科学の自然の見かたは、景観や風景の場合とは違って社会的な秩序の影響を受けてはいない。

(E) 線部(2)について。この部分に関わる説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 風景を見るかどうかと、見えるか否かとは、別次元に属した行為である。

2 二分節化が社会的分節化に対応するとは、士か庶の一方にしか風景が見えないことを意味する。

3 単純かつ複雑であるがゆえに、士庶の分と風景問題とはストレートには対応しにくい。

4 封建的身分制社会とは一面では社会的分節化への抵抗装置とみなすこともできる。

5 精神的な閉塞のうちに眠ったみたいないな状況こそが、単純で複雑な社会的分節化の生みの親である。

(F) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 時代 2 文化 3 娯楽 4 慰安 5 日常

(G) 線部(3)について。これについて説明した部分は、「社会の存立と」から始まり、どこまでか。最後の部分を句読点とも四字で抜き出せ。

(H) 線部(4)について。ここで言われている「社会の現実」の例として、左記各項のうち、ふさわしいものを1、ふさわしくないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 参勤交代制度によって大名諸侯は二年に一回江戸とのあいだを往復した。

ロ 古代以来馬車はまったく使われず、陸路は徒歩が原則だった。

ハ 弥次郎兵衛と喜多八のような庶民の旅は、節約や吝嗇りんしやくを強いられることが多かった。

ニ 今の旅行エイジェンシーのような組織や、旅籠の相互協定などもあった。

ホ 宅配便や郵便のような商売が旅を安楽なものにした。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

暴力は、啓蒙されざる人間と社会が生みだすものだという観念がある。精神が理性的でなく、社会が文明化していない状態を野蛮というが、この野蛮が暴力を生みだすという。暴力を押しかえし、暴力の発現を抑えこむためには、精神を文化と教養によって豊かにし、豊かにされた精神を通じて社会が文明化するならば、おのずから暴力なき社会が生まれると期待されるだろう。こうした考え方は、さまざまな変奏をもつが、一般に啓蒙的人間論としてまとめることができる。啓蒙とは、人間精神を野蛮と神話状態から解放し、社会関係を合理化することである。精神と社会が合理化する過程は、進歩の過程とよばれる。この考え方によると、啓蒙の進歩によってのみ、暴力をなくすことができることになる。すでに久しい間、人間精神の理性化と社会関係の合理化への努力がなされてきたが、なお暴力現象群がたえまなく現出しているのは、どういうわけか。啓蒙的思想は答えるだろう——啓蒙と進歩がまだ足りないのだ、理性による精神と社会の啓蒙と合理化をひたすら続けていくならば、暴力はのり超えられるはずだ、と。現に存在する暴力は、啓蒙の未完成の段階にある一時的現象であり、理性の前進過程が余儀なく伴わざるをえない付随的で偶然的な現象にすぎない。それは、過去の野蛮状態の遺物であって、遺物は早晚消え去るほかはない。理性を信頼すれば、暴力など恐れる必要はない。未来は明るいのだ。これが啓蒙のユートピアである。

近代思想史は、理性とその合理性によって人間精神と人間社会を全面的に改造しようとする途方もない企ての歴史であった。近代合理主義思想は、人間の内なる非合理主義を無視したわけではない。非合理主義とそれと結託する神話の野蛮をよく承知していたからこそ、近代精神は理性主義へと走ったとも言えることができる。われわれは、一九世紀以降、理性を根拠として世界を合理化する企ての限界を知っている。マルクスのイデオロギー論、フロイトの無意識の理論、ニーチェの形而上学批判によって理性の自足性の幻想はうちくだされたばかりでなく、歴史の経験によって、世界の合理化過程が実質的には世界の非合理化過程と共犯関係にあることをもつぶさに知

ることになった。二〇世紀の歴史は、世界の合理化が世界の非合理化へと転落する歴史であった。最も前進した理性的民族と思われていた人びとの中から、ファシズム、ナチズム、スターリニズムが現れたことは、合理化と非合理化、aに気づかせることになった。こうして、暴力を理性と無縁なものとし、理性の進歩とともに暴力が終ると楽観的に考えることもできなくなる。暴力は、理性の内部にすら滲透する。あるいは、理性は暴力の滲透をふさぎとめるほどに「成長」していかないとも言えるだろう。したがって、伝統的な啓蒙的理性主義の線上で、暴力の止揚を展望することはできないのである。近代の合理精神を全面否定することなどは問題ではない。そうした考え方は野蛮である。理性をもって野蛮と暴力をのり超えようとしたプログラムを提出した近代理性的精神の遺産は、今でも重要である。われわれが暴力を論じ、暴力を批判するのは、決して非合理主義へ走るためではない。暴力批判は、理性による批判でありつづける。しかし、問題は、近代理性がいに非合理的で神話的な暴力に屈した事実を、自己反省することなのである。近代的理性の構造の中に、暴力を許す何かがあったのではないか、安易に理性と暴力の連関を処理しすぎたのではないか、理性自体が暴力への傾斜を内面的にかえていたのではないか、等々と問うことの方がこそ重要である。

ところで、暴力についての第二の通念がある。ごく平凡な経験に照らしても人間存在が優越的に暴力的存在であることは誰の眼にも明らかである。子供は天使である以上に悪魔的であって、子供の社会関係は大人のそれと劣らず暴力的である。人間の諸集団内にうずまく精神的にして物質的な暴力状態は、誰もが日々経験している。国家権力の暴力装置については言うまでもなく、国家と国家との暴力的敵対関係は相もかわらず続いている。「平和」とは、戦争の休止状態ではない。こうした経験的観察から一挙に、暴力肯定に走り、暴力に居おる思想もある。イデオロギー的に、暴力を善悪二面にふり分け、自己が行使する暴力を正義の暴力にみだて、暴力の正当化論をつくりだすこともできる。現代の非合理主義は、単なる理性不信ではなく、理性に内在する暴力を逆用して、暴力の合理化を推進する「理性的」思想である。理性に対抗して、感性や感情を持ち上げる非合理主義や神秘主義は、まだ柔かい非合理主義である。硬くて厳格な非合理主義は、野蛮をも理性的道具をもって合理化す

る思想なのである。この場面で、現代の非合理主義と合理主義は、表面的な対立を超えて共犯関係に入る。合理主義が無批判的に追放した暴力を非合理主義が受け入れる。合理主義と非合理主義は、暴力のキャッチボール・ゲームを楽しんでいる。最悪の合理主義は、自己の内なる暴力的非合理性に無自覚なままに、合理性という名の暴力的非合理性を実行する。最悪の非合理主義は、bの現実態を口実に、暴力的cに居なおり、それをdに弁証する。非合理主義は、合理主義の真相を暗闇からひきだし、公然化するものでしかない。非合理主義は、合理主義があつてはじめて生存できる影である。非合理主義への批判は、必然的に合理主義への批判へと通ずる。どちらの面でも、暴力は手つかずのまま放置されている。

暴力の本質を問い尋ねることを放棄することも、暴力に居なおり、暴力に魅惑されることも許されない。⁽³⁾暴力は理性に比べて非本質的で偶然的なものでは決してない。暴力は、理性を包摂してしまうほどに強力な現象であつて、だからこの暴力に魅惑されて暴力を肯定する思想も現れる。どのような通念にも一片の真実が含まれる。近代の合理精神が理性をもつて暴力をのり超えようとしたことのうちにも真実があり、非合理主義的な暴力神話の中にも真実がある。われわれの課題は、合理主義と非合理主義の共犯関係を超えたところで、最も人間的な、人間に固有の暴力の本質を究明することである。理性と共に暴力が消えさるだろうと楽観するのではなく、またこの世界には暴力しかない悲観主義的な諦念に陥るのでもなく、暴力と人間との関係の諸相を分析しつづけることこそ肝心である。

(今村仁司『排除の構造』による)

問

(A) ——線部(1)について。「啓蒙のユートピア」が生まれてくるために必要となる条件は何か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 啓蒙によって人間と社会に進歩をもたらすこと

2 啓蒙された人間だけで社会を構成すること

3 理性の野蛮化を防ぐこと

4 暴力によって暴力を根絶すること

5 文化的な生活を送ること

(B) 空欄 [a] にはどのような言葉を補ったらいいか。左記各項の中から最も適當なもの一つを選び、番号で

答えよ。

1 理性と野蛮との内面的連関

2 理性と野蛮との表面的関係

3 理性と野蛮との無関係性

4 理性と野蛮との合理的関係

5 理性と野蛮との非合理的連関

(C) ——— 線部(2)について。「暴力に居なれる思想」の説明として本文の内容と合致するものを1、合致しないも

のを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 暴力の正当化論 ロ 現代の非合理主義 ハ 神秘主義 ニ 硬くて厳格な非合理主義

ホ 暴力のキャッチボール・ゲーム

(D) 空欄 [b] [d] にそれぞれ入る語句の組合せとして最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、

番号で答えよ。

1 b 非合理主義 c 合理主義 d 合理的

2 b 合理主義 c 合理主義 d 非合理的

3 b 非合理主義 c 非合理主義 d 非合理的

- 4 b 合理主義 c 非合理主義 d 合理的
5 b 非合理主義 c 非合理主義 d 合理的

(E) ———線部(3)について。「暴力は理性に比べて非本質的で偶然的なものでは決してない。」という文章に対する説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 暴力のみが理性の内部で密かに合理性をもつ。

2 暴力は理性と比較するときはじめ、その合理的性格が理解される。

3 暴力よりも理性の方が、はるかに本質的で必然的なものである。

4 暴力は理性の内部に滲透し、合理性を獲得するものである。

5 暴力とは本来合理的なものであり、非合理的なものになるのは偶然である。

(F) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 合理主義と非合理主義の共犯関係が生ずるのは、自らと暴力との間に生まれてしまう関係に、理性が無自覚であるためである。

ロ 非合理主義的な暴力神話が生まれてくる背景には、伝統的な啓蒙主義的理性主義によつては「啓蒙のユートピア」が実現されなかつたからである。

ハ 啓蒙主義的な理性主義が抱く人間観とは異なつて、人間と暴力の結びつきを単なる野蠻ではなく、ひとつの必然であると思ふような、人間と社会についての経験的観察に基づく暴力観もある。

ニ 暴力は理性によつて簡単に根絶されるものではない、という認識を持つならば、理性は自らの内なる非合理性から逃れることができる。

ホ 人間に固有の暴力の本質を究明するためには、非合理主義への批判こそがまず最初になされるべきである。

三 左の文章は、江戸時代の俳諧師、宝井其角が自分の幼い娘について綴った小文である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

さちは姉、妹を三輪と名づく。姉めは日寿の尼、名の親になりて、おひさきの幸あれとことぶきものし給へり。(注1)

三輪は今年ふたつになりぬ。姉よりはもの静かにむまれつきたるを、いみじとかしづく。(注2)

小比丘尼のあと先うたひめでて、道ゆきぶりしたり。朝待ちかぬる蚊屋のくもでに、窓もる光かがはゆく、春の

すずめの雛をひく声をかしう、晴おりたる矮鶏のつまよぶに、おのが空音もなし。灯は有りながら、障子ほがら

かにして、陽にむかへるわらはへの兆をふくめり。丸に尿やる声さへねむたげなるに、外の辺にいそぐ啼き声し

きりて、歩み出でんとするけしきはかばかしからず。「きのふは十足といひつつ、六足、七足ばかりはこびぬとい

ふに、けふは薬師御堂の石壇おりたち給ふ心にや、まうでくる人にも目かよひ給へりし」などいふにうちゑまる。

いつしか左のかた、稲荷の社なる瑞垣にとりつき、立ちて手はなち、御手洗の水まさぐりて袖ひぢたれど、神の

御心はげがしたまはずや。あなかしこ、祈ものするけしきなりけり。(注3)

① ああたつた独りたつたることしかな

貞徳

井上河州公の御吟に、

はへばたてたてば歩めと思ふにぞ我身につもる [] をわするる

[] 人のよはひめでたきにあやかれかし。この比は真砂のうへにまみれながら、おのづから立居もどかしから

らで、千里の浜、八百日行く道しるべせんとて、「あんよあんよ」と、はやしもていぎなはれ行く。社頭の梢、花

あれば「ううつ」といへり。月あれば「のの」とゆびさすに、なほ、舌利なれかし。ここにちいちいちやちや売

る者あり。色鳥に染めたる餅を小串にさして、妖艶にふれそそのかすを、ほしげにて手をさしのべたり。とれば

かいやりすつ。心のままにもてなせば、胡蝶の花にうつろひ、かげろふの水をわたるよりもやさし。家を出でて

あそぶ所、二町にたらずといへども、行き来るごとに、穩母がはかりごとをもてすかしありく。百里の行程に、

海山をかけぬばかりの心なりかし。乳房(注10)くはへて寝てくるは鞍上(あんじやう)の夢にや、駕籠(かご)のうちのうつつにや、老幼のさかひをわきまへずして、浪の立居も真如(しんによ)たがはず。

② 閑居の子ども松風(しょうふう)にねる

晋子(しんし)

〔類柑子〕による

(注) 1 日寿の尼——日蓮宗の尼僧。

2 穩母——乳母のこと。

3 小比丘尼——ここは三輪のこと。

4 くもで——蚊帳の四方についたつり手のことか。

5 おのが空音(そらね)もなし——まごころがこもっているの意。

6 丸——便器のこと。

7 薬師御堂——日本橋茅場町にあつて、作者の家とは近かつた。

8 貞徳——松永貞徳。和歌作者・歌学者・俳諧師。

9 井上河州公——井上正利。江戸時代前期の大名。

10 真如——仏教語で、真実如常、如実の意。一切存在の真実のすがた。事物の本来のあり方。

11 晋子——作者具角の別号。

問

(A) ——線部(1)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|------|
| 1 | 大切に育てる | 2 | 心から喜ぶ | 3 | 心配する |
| 4 | 不思議に思う | 5 | もてはやす | | |

(B) 線部(2)は誰の行為か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 さち
- 2 三輪
- 3 日寿の尼
- 4 穩母
- 5 作者

(C) 線部(3)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 自然と上手になる
- 2 思わずほほえまれる
- 3 膝を打って納得なさる
- 4 ふとお笑いになる
- 5 おのずと満足する

(D) 線部(4)の意味を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(E) 線部(5)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 ああ大胆なこと
- 2 ああ利口なこと
- 3 ああ大人びたこと
- 4 ああすばらしいこと
- 5 ああもつたいないこと

(F) ①は、松永貞徳が以前に詠んだ新年の句である。筆者はこの句をここに引用することによって何を言いたいのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 三輪がひとつ年をとったことを寿いでいる。
- 2 三輪が初めて自分の足で立ったことを祝っている。
- 3 三輪に孤独な新年を迎えさせたことを悔やんでいる。
- 4 三輪を乳母任せにしたまま年が経ったのを嘆いている。
- 5 三輪が健やかに成長し早くひとり立ちするよう祈っている。

(G) 空欄□には同じ言葉一字が入る。どのような言葉を補ったらよいか、左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 罪
- 2 恋
- 3 恩
- 4 老
- 5 病

(H) ——— 線部(6)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 立ったままでいるのも疲れるので
- 2 立ったままでいるのも菌がゆいので
- 3 立ったり座ったりするのも自由になって
- 4 立ったり座ったりするのもじれったくて
- 5 立ったり座ったりするのも間が悪くて

(I) ——— 線部(7)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 そのままお喋りしてほしい
- 2 きっとお喋りが得意に違いない
- 3 もっと言葉も上手になってほしい
- 4 やはり言葉はおぼつかないようだ
- 5 さらにお喋りが流暢になったようだ

(J) ——— 線部(8)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 思い通りにあやすので
- 2 思う存分もてはやすと
- 3 わがままに育てたので
- 4 望み通りにかわいがると
- 5 思うがままにふるまうので

(K) ——— 線部(9)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 胡蝶の花が色あせ
- 2 胡蝶が花で休息し
- 3 胡蝶が花で息絶え
- 4 胡蝶が花から花へ移動し
- 5 胡蝶の花の季節にかわり

(L) この文章を締めくくる②の句に対する評として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 幼い子どもの何ものにもとらわれない無心の眠りに感じ入って詠んだ作。世俗を離れて暮らす「閑居」や趣深い「松風」と、無邪気で幼い子どもとの、不釣り合いな取り合わせに滑稽がある。

- 2 隠棲者の住まいであっても気にせず眠る、長幼の序をわきまえない我が子の行く末を案じて詠んだ作。

「老幼のさかひ」や「真如」という仏教の教えを守ってほしいという作者の願いが込められている。

3 粗末な住居で風に吹かれたまま寝ている子どものことを心配して詠んだ作。寂しさや冷たさを感じさせる「閑居」と「松風」の語に、風邪でもひきはしないかとはらはらする作者の心境が投影されている。

4 我が子の寝姿を眺めつつ、病気がちであることを憂えて詠んだ作。長生きして隠居した老人が住む「閑居」や、長寿の象徴である「松」の語に、子どもの健やかな成長と長寿を願う親の願いが託されている。

5 親の帰りを待ちながら寝てしまった、子どもの愛らしさを詠んだ作。「松」に「待つ」の掛詞を用いることで、短い言葉のなかに「親」の存在を感じさせ、親を待つ子どものいじらしい心情が効果的に表現されている。